

質 問 順 位	1 2	質 問 者	高 橋 江海子 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
1. 市長の基本姿勢	1. 女性活躍社会の実現について	1. 「第2次滝川市男女共同参画計画」では、意思決定過程への女性の参画拡大が目標に掲げられ、「市職員においては女性管理職の登用に努めます。」との記載があるものの、滝川市の現行組織において、部長級以上の職位に女性は1人も登用されていない状況である。市としてこの現状をどのように捉えているのか、また、今後の人事において管理職への女性登用をどのように進めていく考えなのか、併せて伺う。		
	2. 滝川駅周辺地区再生整備事業について	1. 令和5年第4回定例会において私は、文化ホール整備に関してアンケートやワークショップの活用など市民参加の必要性を提言した。先日滝川市文化連盟から配布された会報やアンケートには、文化活動の継続や継承が困難になりつつある現状や、施設整備への強い要望が記されており、私自身も共感している。 滝川駅周辺地区再生整備基本構想のなかで、再生拠点として文化ホールを含む駅前交流施設の整備が示されており、今後も同事業に文化ホール機能を含めて検討を進めていく方針に変わりはないか、市の方針を伺う。		
2. 保健福祉行政	1. 生活保護について	1. 生活保護受給者が入居している家主から、市が住宅扶助（家賃）を受給者本人に全額支給する形式では、家賃の未納や滞納が生じやすく、家主側の経営リスクになっているとの相談を受けた。生活保護制度は、健康で文化的な最低限度の生活を保障することを目的としているが、家賃の未納等により退去・転居が繰り返されることは、受給者本人にとっても不安定な生活環境を招く要因となる。このような事態を避けるため、住宅扶助の一部または全部を自治体が家主に代理納付をする取り組みを行っている自治体もある。そこで以下の点について伺う。 ①滝川市における住宅扶助の支給・管理の現状と、未納トラブルの実態把握について ②市が住宅扶助を代理納付することの制度的・運用的可能性について ③家主と入居者である生活保護受給者の安定した住環境の整備・確保が図られるための市の対応方針について		

質 問 順 位	1 2	質 問 者	高 橋 江海子 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
	2. 保育料の算定について	1. 本市では多子世帯の保育料負担軽減策として、第2子・第3子軽減制度を設けているが、同時に就学前である子どものみをカウントするため、上の子が小学校に上がると下の子が1人目扱いになり、保育料の軽減が受けられなくなる。実際には複数の子どもを育てる負担は年齢に関わらず続いていくのに対し、この負担軽減策は双子や年子などごく一部の家庭にしか適用されない限られた支援策であると考え。千葉市などの事例を参考に、この「多子の定義」の見直しや、保育料算定の柔軟な運用を検討してはどうか。市の見解を伺う。		
	3. 妊産婦への保健・栄養指導について	1. 妊婦面談や乳幼児健診における保健指導・栄養指導については、支援の一環として丁寧を実施されている一方で、時間が長時間に及ぶことが母親にとって負担となっているとの声が寄せられている。座り続けることはお腹の大きな妊婦にとって身体的負担が大きく、私自身も妊娠中に2時間程の拘束の長さから体調悪化につながり、医療的処置を要した経験がある。相談や不安のある人には十分な時間をかけることが重要である一方で、同じ説明を既に受けている経産婦や体調面が優れない妊婦に対しては、内容を簡素化・選択制またはオンラインにするなどの柔軟な運用ができないか。市の考えを伺う。		
3. 教育行政	1. 文化教育拠点について	1. 現在市内文化団体が使っている音楽公民館や市民交流プラザについては、簡易舞台の天井の低さや音響環境、バリアフリー対応や空調設備の不十分さなどの課題が文化団体から多数指摘されており、既に本市の文化振興全体に悪影響が出ているとの声もある。新たな施設整備までの期間、既存施設の機能補完や利用環境の改善など、暫定的な支援策を講じる考えがあるか伺う。また、あるとすればいつ頃の対応になるのかを伺う。		

質 問 順 位	1 2	質 問 者	高 橋 江海子 議員	
件 名	項 目	要 旨		メ モ
		2. 文化施設整備の遅れによる子どもたちの育ちや地域の文化芸術継承に及ぼす影響は見すごせないと考える。こうした観点を踏まえ、市として今後の文化芸術政策をどのように位置づけ、展開していくのか。見解を伺う。		